

米 書 評

沼知福三郎・本間 仁 監修
春日屋伸昌 編集幹事

水 工 学 便 覧

書 評 者
伊 藤 剛*

沼知福三郎東北大名誉教授，本間 仁 東大教授監修にかかる標記の書物を見て，まずおどろいたことは，ページ数 1246，重さ約 3 kg というマスからくる重圧感である。しかし内容をひらいてみると，活字も大きく，至って読みやすく，かつ親しみやすい好い書物であることが感じられる。土木学会刊行の土木工学ハンドブックよりもずっと読みやすい。

本書は基礎編，応用編，資料編の三つに分れている。各編はさらに細分され，それぞれ専門家が執筆している。基礎編は主として大学の若い教授，応用編は主として官庁または民間の専門技術者が担当している。範囲は，河川，海岸，砂防，ダム，発電，上下水道，かんがい排水，水力機械等土木工学，機械工学，農業工学のひろい分野におよんでいる。これだけ立派な一流の専門家を動員できたことは，何ととっても本書の第一の特色である。

本書を一覧した感想をきたなく述べると，基礎編がやや簡単すぎると思われた。これは本書のような，便覧という性質上ねがうほうが無理かも知れない。ただ応用編を読んで，その理論根拠として基礎編をみても，なかなか納得がゆかないという場面にとときどきぶつかる。

また“ことば”の問題が必ずしも統制がとれていない。たとえば特性方程式ということばが，流体の温度，

圧力の関係式のところと開水路の流れの偏微分方程式のところに出てくる。この“ことば”は，原語も同じだが日本語にする場合何とか区別できないものか。

もう一つ基礎編のところでは注文したいのは，せっかく流量測定，水理実験という理論と応用とのつなぎ（とわれわれは考えている）まで取り上げたのに，もう一歩進めてアナログ コンピューターと電子計算機の使い方の項を取り上げていないことである。もっともアナログコンピューターのことは河川工学の項で少しふれてはいるが……。

応用編は何とんでも本書の出色の部分である。これに代る書物は日本では見当たらない。

各項簡潔ながらまとまりよく書いてある。たとえば河川工学の項の現在の問題点，すなわち読者が知りたいと思う点をみな取り上げて，それを要領よくまとめた点，発電水力の項で，たとえば潮力発電のところなど，私どもの専門とするところを見ても，これよりよい参考書は見当たらないと思うくらいである。

応用編にも多少の注文はある。それは機械部分に，水車，ポンプしか取り上げてないが，その他スラリー輸送とか，パルプ，石油のパイプライン等流体輸送につき，現代問題のところであるのが省略されている点と，設計例のところにコストをあげて貰いたかった点である。

以上通覧して気の付いた点を述べたが，これをまとめて見るとつぎのようになる。

- (1) 厚くて重い書物なので，第一印象は読みづらいと思われるが，内容を開くと広範にわたって簡潔に要領よくまとめてあり，大変よみやすい本である。
- (2) 応用編が特に出色で，その一つ一つをとり出しでも一流の好参考書である。
- (3) 機械関係が水車，ポンプだけで少し淋しい。

* 正会員 工博 産業計画会議委員

森北出版刊，B5 判・1246 ページ，定価 10 000 円

新 刊 目 録 (次ページ下段に続きます)

編集者名	書 名	判 型	ページ数	出 版 社	定価	記 事
伊 吹 山 四 郎	道 路 工 学 演 習	A 5	403	学 献 社	1400	本書は先般配本が開始された最新土木工学演習集成の第3回発刊図書である。著者が同書「はしがき」欄で述べているように，本書は応用の面に重点をおいて書かれた図書で，演習のための指導書として学生向きの図書といえる。
農 業 土 木 学 会	農 業 土 木 標 準 用 語 事 典	B 6	222	農 業 土 木 学 会	1000	「農業の土地および労働の生産性をたかめるための土木」と呼ばれる本部門の用語事典がこのほど出版された。本書はB6のハンディな図書で，和英の索引を備え，用語は経済・社会，地域計画，土壌，開墾，干拓～法律等90の中項目別に収録されている。なお，各項目のはじめには，「まえがき」が設けられており，その項に含まれる用語の範囲等につき明記されている。なお，用語の記列は従来の五十音順，ABC順等を用いず，その項目の内容を体系的に理解するに便利な配列をとっている。